

国語教育 相談室

小学校

No.60

国語教育相談室
No.60

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.115 定価126円(税込)

2007(平成19)年4月25日発行

発行人=常田 寛

発行所=光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話03-3493-2111

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

印刷所=村田印刷工業株式会社

デザイン=秋葉 幹司

特集

入門期の国語の指導を考える —体験と言葉をどう結びつけるか—



人生初期の言語教育 森 隆夫



久保純子 この言葉がすき

巻頭エッセイ

「かんたんだよ!」
と、かんたんせんせいは言いはなつ

斉藤 洋

寄稿

新一年生をつくる授業 曾我正雄

実践
報告

さまざまな学習の場で国語力を身につける

集中
連載

子どもを伸ばす国語授業のヒント

連載

わたしの国語教室 若い先生たちへのエール 手間をかける

連載

一寸苦言 教材理解・児童理解にもとづく究極の授業

連載

書写

書写の時間を楽しく 入門期の書写指導

書写ってこんなにおもしろい! 書写の要素 文字の外形

光村図書

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。

くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

この言葉がすき ありがとう 久保純子

2

巻頭エッセイ 教えること、教わること。
「かんたんだよ!」と、かんたんせんせいは言いはなつ 斉藤 洋

特集 入門期の国語の指導を考える — 体験と言葉をどう結びつけるか —



4

人生初期の言語教育 森 隆夫

実践提案 ①

言葉とじっくり向き合うことで
「読むこと」の楽しさを感じさせる授業を目ざして 新しい指導を考える会

実践提案 ②

子どもたちの経験を「ことばの力」に生かす 新しい指導を考える会

14

寄稿 — 新一年生をつくる授業

どの子も、笑顔で生き生きと活動する教室を 曾我正雄

18

実践報告 — さまざまな学習の場で国語力を身につける

「総合的な学習の時間」と連携した国語科の学習 新しい指導を考える会

22

集中連載 — さあチャレンジ! 子どもを伸ばす国語授業のヒント(最終回)

次の授業に生かす学習の技術と心 岩崎 保

26

連載 — 一寸苦言

教材理解・児童理解にもとづく究極の授業 一徹国語人

28

連載 — わたしの国語教室 16 若い先生たちへのエール

手間をかける 吉永幸司

✎ 書写の時間を考えよう

30

連載 — 書写の時間を楽しく ④

入門期の書写指導 新しい指導を考える会

34

連載 — 書写ってこんなにおもしろい! 23

書写の要素 文字の外形 宮澤正明

36

光村図書既刊本のご案内

38

お知らせ

♡
ありがとう♡
♡
久保純子

“ありがとう”

私にとって一番大切な言葉です。

ありがとう、とは字の如く、「有ることが難しい」という意味です。

普段当たり前の様に、見聞きし、触れている事柄も、

実は、とても貴重で得難い物を得ているのでは、と私は思うのです。

美味しい野菜、ご飯に、ありがとう。

美しい四季に、ありがとう。

健康に、ありがとう。

すてきな仕事に、ありがとう。

温かい家族に、ありがとう。

人はひとりで生きていくことはできません。

周りの人たちの笑顔や優しさに支えられて、

人生という長い道のりを歩んでいきます。

そんな素晴らしい出会いひとつひとつに、ありがとう。



久保 純子 フリーアナウンサー

くぼ じゅんこ

1972年1月24日東京都生まれ。1994年NHK入局。大阪放送局で阪神淡路大震災などを取材、制作、放送する。その後『ニュース11』で、一躍お茶の間の人気者に。『紅白歌合戦』の司会も3年連続で務める。現在はフリーアナウンサーとして『ブロードキャスター』(TBS系)や、子ども番組『ハッピー! クラッピー』(CS キッズステーション)、『ミュージックサタデー』(文化放送)などで活躍するかたわら、絵本の翻訳や読み聞かせなどにも力をいれている。

「かんとんだよ！」 と、かんとんせんせいは言いはなつ

児童文学作家

さいとう ひろし
齊藤 洋

かんとんせんせいは、まず、
「かんとんだよ！」

と言いはなつてから、
「では、一ばんかんとんなほうからおしえよう。」

と言つて、服をぬぎ、パンツ一まいになつてしまふのだ。

これはなんのことかと言うと、去年、つまり平成十八年に、講談社から出した幼年童話、『かんとんせんせいとペンギン』の話だ。

かんとんせんせいは世界中どこにでもあらわれる。つまり、世界漫遊の徒だ。そのかんとんせんせいを待ちかまえていたペンギンに、空を飛びたいと相談を持ちかけられたとき、かんとんせいせいは、

「かんとんだよ！」
と言いはなつ。

それで、このさき話がどうなっていくかは、本を読んでいただくことにして、それはともかく、実を言うと、そういう幼年童話の本を出しているくらいだから、私は、なんと言うか、いわゆる童話とか児童文学とか、そういうジャンルに入る仕事をしている。それで、そもそも、そういう仕事をするようになったのは、子どものころからの夢で……なんてことはぜんぜんない。きっかけは、今から二十一年まえの昭和六十一年の二月に、

へ小説を書くのは大変ですが、児童や青少年少女向けの童話や冒険小説なら、なんとかなるか。ねじりはちまきで「講談社児童文学新人

が、その中には、まあ、線一本で書けるものもあるにはありますが、よほど細い筆記用具で書かないと、五ミリのますに書くのはちよつとむずかしいような、複雑なものもありあります。」

と言われて、しかも、そのあと、溜め息なんかつかれて、

「やつぱり、ちよつと無理ですかねえ。数も多いからねえ……。」

とかつけくわえられたら、ほとんど絶望的な気分になつて、挑戦する気にはならないのではなからうか。

今思えば、ひらがなとかかなだけでも百くらいあるのに、あんなにおびただしい数の漢字まで、よくおぼえたものだ、われながら感心してしまう。それは、漢字をおぼえるのがどんなに大変かという前宣伝なしに、

「まあ、とにかくさ。ちよつとやってみようよ。それでさあ、数の1だけどね、これは横に棒を一本引けば、それで書けちゃうんだよ。でね、2はさ、もう一本……。」

とか言われ、

「あ、そうなんだあ……。」「と、まずちよつとやってみて、やりつづけてきた結果、千だか、それ以上だかの数の字を読み書きできるようになつてきたわけである。これ

は、私だけではなくて、日本で小学校教育を受けたたいの人間がそうなのだ。

であるからして、どんなことでも、やる前からむずかしさを強調するのは愚かきわまりなくて、たとえペンギンが空を飛ぶことでも、

「かんとんだよ！」

と言いきつたり、

「児童や青少年少女向けの童話や冒険小説なら、なんとかなるか。」

くらいなことを言つてしまったほうがいいのではないだろうか。

「むずかしいことに挑戦してこそ価値があるのだ！」

なんて、そりゃあ、そうかもしれないけれど、そんなふうに言われても、やる気にはならないのだ、ふつうは！

そういうむずかしいことは、それなりに成長して、おとなになつて生活にも余裕ができて、そういう気になつたら、各自勝手にやつてもらうことにして、少なくとも青少年少女のうちは、へむずかしいなんていう言葉は禁句にしたほうがいいのではなからうか。さもないと、平気で、

「無理っ！」

と言いはなつ若者があつちこつちにあふれるようになってしまふ。

賞」に挑戦してみませんか。〜

という「日刊ゲンダイ」の記事にめぐりあつたことだ。

私は、なんとかなるかもつて書いてあるんだから、なんとかならんじゃないか、と思い、『ルドルフとイッパイアッテナ』という作品を書いて、応募した。そうしたら、なんとかなつてしまい、それで、今もそういうジャンルの仕事を続けているのである。

この話をすると、

「そういう記事を見ても、ふつうは、なんとかなるかもつて思いませんよ。」

と言われることが多い。

それならというわけで、私は言いたい。

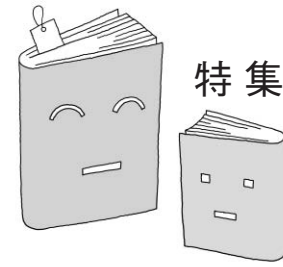
「これから文字を千ほどおぼえてもらいます

齊藤 洋（さいとう ひろし）

児童文学作家・亜細亜大学経営学部教授。1952年、東京都生まれ。『ルドルフとイッパイアッテナ』で第27回講談社児童文学新人賞に入賞デビュー。現代劇から、ミステリ、ホラー、SF、時代劇、ファンタジー、ナンセンス童話まで、様々なジャンルで質の高い作品を発表する。

入門期の 国語の指導を考える

—体験と言葉をどう結びつけるか—



特集

〈最初に教える言葉は？〉

赤ちゃんに最初に教える言葉は何か、ということに気づいたのが、通勤電車の中吊広告を見たときである。広告には、紙面一面に大きく“Please”とだけ書いてあったので近づいてよく見ると、下の方に小さく、「アメリカで二番目に教える言葉」とあり、隅の方に、〇〇英会話学院とある。そのとき、それでは一番目は何かと連想した。勿論「サンキュー」である。ならば、三番目は何かと考えていくのが、模倣から創造へのステップである。三番目はとアメリカ帰りの大学教授にきくと、即座に「ユアウェルカム（どういたしまして）」という。

この、「ありがとう、どうぞ、どういたしまして」の三つの言葉は、子どもの躰の基本としても必要である。「三つ子の魂百まで」なのだが、問題は、日本ではそうした教育論がないので、小学生になってから慌てて言語教育、道德教育といっても手遅れなのである。入学前の言語教育は大きな忘れ物である。

〈体験から学ぶ言葉〉

そういえば、若い頃二度目のドイツ留学からの帰国に際し、家族を呼び寄せて、二週間位滞在したときのことである。そのとき、当時三歳の二男が覚えたたったひとつのドイツ語が、「ビッテ」（英語のプリーズ）であるが、それはドイツの人達が日常生活で如何にビッ

人生初期の言語教育 —無意識的学習と意図的学習—

お茶の水女子大学名誉教授

森 隆夫（もり たかお）

〈喃語から言語へ—そのプロセスは？〉

人間（赤ちゃん）が最初に喋る言葉は何だろうか。かねがね疑問に思っていたので、発達心理学の教授らにきいてみたが、いずれも定かでない。大方の答えは「喃語」になるが、それは「アー」とか「ウー」という「言葉にならない段階の『声』」であって、言語とはいえない。喃語から言葉に移る「発達」の過程が知りたいのである。

それを研究する方法は二つあると思う。ひとつは、赤ちゃんが自然に覚えていく（学習する）言葉を調べる方法、いまひとつは、親が積極的に赤ちゃんにはどういう言葉から教えたらいいかを考える方法である。前者は比較的容易だが教育学的には後者の方法が重要である。にもかかわらず、我が国ではそれがほとんど行われていない。つまり、発達教育学（発達心理学ではない）が遅れているとい

テという言葉を使用しているかを表わしている。次男は無意識のうちに「ビッテ」という言葉とその使い方（「ビッテ」にはどういたしましての意もある）を覚えたのである。帰国後も暫くの間、ビッテと言っていたのでビッテというニックネームがついた。

それはさておき、このことは、言語の習得は、無意識のうちに模倣しながら覚えていくことを表わしている。ところが、学校教育では意識的・意図的に模倣させることから始まる。

ここで重要なことは、入学前の無意識的学習の多寡が入学後の意識的学習の效果に影響を及ぼすということである。つまり、入学前の直接体験学習が多ければ多いほど、入学後の学習がスムーズになるといえる。そこで考えられたのが、この「無意識的学習」と「意図的学習」を統合する教育方法で、これをイメージトレーニングという。その際、無意識的学習を意図的学習に先行させることが重要である。勿論、学校教育の一環として無意識的学習を意図的に行うこともできる。実はそれが生活科でもある。また、教師の学校生活での態度、行動が模範的であれば、子どもは教師の模範的行動を無意識的に学習し、さらにその教師から意図的に道德の指導をされると一層道德教育の効果が上ることになる。道德教育にはイメージトレーニングが必要なのだ。



森 隆夫（もり たかお）
1931年富山県生まれ。東京大学教育学部卒。フランクフルト大学留学（フムボルト財団）。国立教育研究所員を経て、現在お茶の水女子大学名誉教授。1977年から1981年まで同大学附属小学校校長を務める。中央教育審議会委員、教育改革国民会議委員等を務める。光村図書の生活科教科書の作成に携わる。著書に著作集『教育の扉』（全15巻 ぎょうせい）、『校長室の知恵』（ぎょうせい）ほか多数。

うことである。したがって人生初期の言語教育の研究が望まれる。

〈模倣と模範〉

あらゆる教育の第一歩は模倣である。それを疑う人は、今、書いたり読んだりしている文字を自分で発明（創造）したものでどうかを考えてみるがよい。それはさておき、「模倣」ときいたら「模範」を連想することであり、どうせ模倣するなら善いこと、美しいこと、「模範を模倣」した方がよい。だが、残念ながら、赤ちゃんは模範か否かの判断力がない上、動けないから身近の親（必ずしも模範といえない）を模倣せざるをえない。ここに教育の悲劇の第一歩がある。「子は親の鏡」といわれる所以である。「親は子の鑑」でなければならぬにである。「嗚呼」（これは大人の喃語か？）

〈全身学習法〉

ところで、入学前の生活体験の中で影響が大きいのは、テレビとゲームであるが、両者とも「影」の部分の多く、「光」は少ない。曇天下にある言語環境にときどき光が射すのは、音楽かもしれない。歌といえば、生涯教育的には子守唄に始まり、童謡、小学校唱歌、フォークソング、演歌……と続くが、これらは全て、人生の子守歌といってよい。メロディがこれに加わり、心も癒されるからだ。

そういえばユダヤに全身学習法といって、声を出して意味が分からなくても読みながら、手でなぞりながら、体を動かしながら全身で覚えさせるという方法があるが、これは記憶力をつけることになるという（ユダヤ人にノーベル賞受賞者が最も多い理由のひとつ。なぜなら、創造とは異質（多様）な知識の組合せだから）。

〈入門期以前こそが大切〉

つまり、言語指導は乳幼児期から考えるべきである。それは単に国語教育というだけでなく、人間教育の基礎でもある。しかしながら、現実にはこの分野の研究は遅れている感がある。国語教育は生涯学習の第一歩なのである。

言葉とじっくり向き合うことで「読むこと」の楽しさを 感じさせる授業を目ざして

新しい指導を考える会

1 はじめに

一年生の一学期は、ひらがなの習得や会話を中心にした伝え合う学習など、「国語」という教科との出会いを楽しむ時期である。教科書における文学教材も登場人物に同化しやすいものが多く、子どもたちは、リズムカルな節をつけて読んだり、主人公になりきって動作化したりすることを楽しんでいる。このような実態から、この時期の「読むこと」に関する指導は、文章を楽しんで読むことや内容の大体をつかむことがねらいとなる。しかし、「楽しさ」や「大体をつかむ」ばかりを気にするあまり、「あれは難しい」とか「これはまだ早い」といって、「読むこと」の学習を音読や動作化のみで済ませるわけにはいかない。国語力の確かな向上を目ざすならば、入門期であることは配慮するが、むしろ、好奇心旺盛な子どもたちが、文章を読むことの本来の楽しさを実感できる学習展開を工夫すべきであろう。本実践では、入門期における文学教材の指導で大切にしたい三つの学習を取り入れることにした。

2 実践

◎「おむすび ころりん」の実践（一上）

（1）教材について

「おむすび ころりん」は、子どもたちにとっては「はなのみち」に続く二つめの文学教材である。光村図書の教科書では、長年にわたり一年生の一学期の教材として掲載されており、昔話に込められた人々の心と日本語の言葉の響きを堪能できる入門期の文学教材として親しまれてきた。思わず声に出したくなる七五調の語りや難しい言葉がほとんどない文章は、楽しく読んだり体を動かしたりしているうちに展開や情景を想像することができ。また、多くの擬態語が使われているため、子どもたちが様子を想像しやすく、楽しみながら叙述に即した読みができる教材といえる。

（2）指導の工夫

①叙述に即して読むことの大切さにふれる
入門期の子どもたちは、文章や挿絵からいろいろな情景や登場人物の心情を想像することができ。しかし、それらは漠然としたものであることが多く、中には明らかに読み誤っていた

りする場合も予想される。発言した子どもを「いいよ、よく考えたね」「がんばったね」と賞賛する段階も必要だが、読むことに慣れてきた六月であることを考えると、子どもたちが「ここに、こう書いてあるから！」と言えるような、叙述に即した読みを指導する段階に少しずつねらいを移していきたいものである。

そこで、指導にあたっては、登場人物の気持ちを想像させるときに、「登場人物の気持ちがわかる表現はどこか？」という趣旨の発問をし、子どもたちが文章とじっくり向き合えるような学習展開を目ざす。

〈授業風景1 音読を工夫しているよ〉

- T ○○くんは「おむすび ころりん すっとうん」の読み方を工夫したね。みんなの前で読んでください。
- C1 (P 59 L1～P 60 L4を音読)
- C2 ○○くんは、「おむすび ころりん すっとうん」のころを小さい声で読んでね。
- T ○○くんはどうして小さい声で読んだの？
- C1 遠くの方から声がする感じがしました。
- T 教科書に理由になる文章があるか、みんなで探してみよう。
- C3 「のぞいて みたが まつくらで、」と書いてある。
- C4 「みみを あてたら きこえたよ。」と書いてある。
- C5 そうか。まつくらな穴の奥で聞こえたから小さく聞こえるってことか。
- T では、「おむすび ころりん すっとうん」は、全部

- ①叙述に即して読むことの大切さにふれる
- ②「登場人物の気持ち」を文章で書き表す
- ③言葉のもつ意味を大切にしながら読む

【評価】

音読の工夫を叙述をもとにして考えているかどうか評価の力をにぎる。C1だけでなく、教科書に書いてあることを理由に挙げることができたC2～C6も、「めあてを達成している」とする。

②「登場人物の気持ち」を文章で書き表す

ひらがなを学習したばかりの子どもたちは、覚えた文字を使いたがる。「書くこと」の領域で、口頭作文や一行作文などで書く経験を積んでいるが、「読むこと」の領域でも、積極的に書く学習を仕組めるはずである。

しかし、いきなり「おじいさんの気持ちを書きましよう。」と投げかけられても子どもたちは困惑するだけだし、かえって書くことが嫌になってしまう危険性もある。

そこで、指導にあたっては、登場人物の気持ちを五つの「表情カード」から選ばせ、その表情でどんなことを言いそうかを短い言葉で書かせた。これは、「頭の中で考えること」から「書くこと」の間にスモールステップを作ることねらったものであり、教師にとっては子どもたちが各場面をどのように読んでいるのかを評価する資料になる。

実践提案 ①

実践提案 ②

〈授業風景2 おじいさんの気持ちを考えよう〉

□の場面(教科書P60L5～P63L2)

T 「ねずみの おうちに とびこんだ。」ときのおじいさんの
気持ちは、五つの顔の中のどれでしょう。そして、おじい
さんはどんなことを言ったか考えてみよう。

(大笑い顔を選び) 楽しいな。

(びつくり顔を選び) びつくりしたよ。

(泣き顔を選び) 怖かったよ。

(怒り顔を選び) なんで穴があいてるの。

T いろんな考えが出ましたね。友達のことを聞いて、何か意
見がありますか。

C7 すべり台みたいで楽しかったと思う。

C8 真っ暗な穴に入っていくんだよ。びつくりだよ。

C9 足をすべらせたんだから、恐かったと思うな。

C10 穴に落ちたんだから、頭にくると思うな。

T いろんな考えが出ましたね。みんな「はなマル」になるか、
もう少しだけじっくり読んでみましょうね。

【評価】

自分の考えをしっかりと決めて、簡単な文章で書くことが
できれば「めあてを達成している」とする。ただし、C10は
読み間違いであり、C8とC9についてはそう読めるかもしれ
ないが、もっと大事な部分に気づけることを期待し、授業
風景3に続く。

像させる上でどのような効果があるのかについて考えさせ
ることにする。なお、この場面は、「授業風景2」の続きであ
り、さまざまな意見に分かれた答えを解決に向かわせる手段
となる。

〈授業風景3 言葉の使い方による効果を考える〉

(授業風景2の続き)

T おじいさんは、どうやら足をすべらせて落ちたようだね。

だったら、先生は、教科書に「ねずみの おうちに おち
ちゃった。」と書いてあってもいいと思うな。みんなはど
う思う？

C11 そうだね。おじいさんは落ちたもんね。

T どちらも同じ意味になるかな？

C12 「おちちゃった」だと、間違えて落ちてしまった感じ。で
も、「とびこんだ」だと、おじいさんがとても楽しそうな
感じがするな。

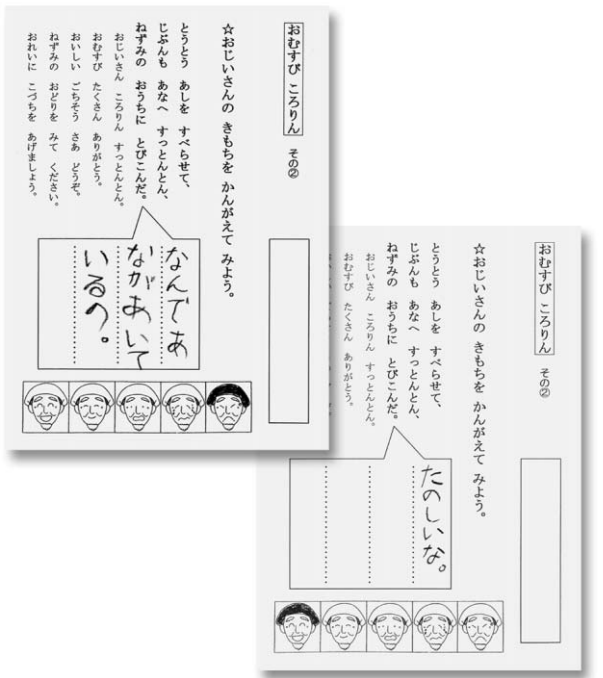
C13 「とびこんだ」って書いてあると、自分から穴に入る感じ
がする。おじいさんは、穴に入りたくなかったと思う。

C14 私、水泳で飛び込みをするけど、「とびこんだ」の方が
「いくぞー」って感じだよ。

T 「ねずみの おうちに とびこんだ」ときのおじいさんが
見えてきそうだね。

C10 さっきは、怒っていると思ったけど、怒ってはいないと思
います。

T 言葉に注意して考えてみると、見えてくるものがあるんだ
ね。言葉って大切だね。



③言葉のもつ意味を大切にしながら読む

文学教材では、作者は使う言葉一つ一つに細心の注意をは
らっていると聞く。確かに、読み手に間違った解釈をされるの
は避けたいし、かといって読み手一人ひとりに自分の作品のイ
メージを伝え歩くわけにはいかない。必然的に作者自身が創り
上げた世界を正確に表現する言葉を選ぶことになり、これが最
も難しい部分の一つであろう。

これからさまざまな本と出会う子どもたちには、こうして生
まれた作者の言葉をきちんと受け止め、物語の世界を豊かに想
像することができると読み手になってくれることを望む。

そこで、指導にあたっては、おじいさんの気持ちが表れてい
る言葉を意図的に抽出し、その言葉がおじいさんの気持ちを想

【評価】

二つの言葉を比べ、作者が「とびこんだ」という言葉を
使った意図に迫ることができたら「めあてを達成している」
とする。子どもたちが、言葉のもつ意味をじっくり考えた
り、日常の体験と結びつけて言葉の幅を広げていったりす
る姿を期待する。

3 おわりに

本実践を行った六月は、子どもたちの個人差はとても大き
かった。ある程度長い文章も難なく読める子どももいれば、今
回の「おむすびころりん」が初めての長い文章となる子ども
もいるのが現実である。本実践のような、言葉を大切になが
ら楽しく音読したり、謎解き感覚で言葉とじっくり向き合っ
て読んだりする学習を積み重ねること、一人ひとりの子どもに
文章を読むことの本当の楽しさを実感させられる国語教室を目
ざしていきたい。

子どもたちの経験を

「ことばの力」に生かす

新しい指導を考える会

1 はじめに

入学したばかりの一年生は、新しい友達と出会い、新しい経験をしながら毎日を活発に過ごしている。何をするにも意欲的であり、だれもが「やりたい」「できるようにになりたい」と思っている。教師もその気持ちに答え、力をつけてやらなければならない。児童は、一人ひとり経験してきたことも違い、また語彙量にも大きな差が見られる。そこで、子どもたちの活動の中から言葉を広げたり、絵や文字で表現したりしながら知識を共有のものと、クラス全体の「ことばの力」を高めていきたい。

2 実践

(1) 「うたに あわせて あいうえお」

「一ねん〇くみ あいうえお」作り

○単元の目標

・声に出して楽しく読み、「あいうえお」に親しむ。

・自分たちの学校生活を振り返り「あいうえお」にあてはめて、ことば遊びを楽しむ。

○単元の流れ (3時間)

・いろいろな読み方で音読する……(1) 帯時間
・いろいろな「あいうえお」の詩を読む……(1)
・「一ねん〇くみ あいうえお」を作る……(1)

○主な活動

①音読

「全員で、グループで、男女に分かれて、一人一行ずつ、声の大きさを変えて、手拍子を入れて……」などいろいろなバリエーションで音読をし、声に出して読むことを楽しむ。この場合の1時間は、まとめて行うのではなく、10〜15分を朝の会や国語の時間の始めに帯時間として設けるとよい。

②いろいろな詩

教科書p12〜15の「うたに あわせて あいうえお」のほかにも「あいうえお」を使った作品は、たくさんある。『あいうえおさま』(寺村輝夫/理論社)『あいうえおばけだぞ』(五味太郎/絵本館)『あいうえおのうた』など、いろいろな「あいうえお」の詩にふれることで「あいうえお」(五十音)を身近に感じ、ことばのリズムやことば遊びの楽しさを味わわせたい。

③「一ねん〇くみ あいうえお

入学してから経験してきたことをみんなで出し合い、五十音にあてはめてみる。その際、同じことばを選ぶ子がいなくても気にせず自分の好きなひらがなを選び、楽しい経験を絵とことばで

(2) 文字・ことばの獲得

出会いを大切に

○目標

・筆順や形に気をつけて、ひらがなを正しく覚える。
・覚えた文字から「ことばを見つけ」をし、語彙を広げる。

○主な活動

①文字遊び

初めて出会うひらがなの学習は、ノートや画用紙を使い、一文字だけゆつくり大きく書かせたい。クレヨンやカラーペン・色鉛筆などを使って文字に洋服を着せるように何重にも書き重ねながら、「はね・はらい・おれ」などに気づかせていく。

(資料2)

(資料1)



(資料2)



(資料4)

3 おわりに

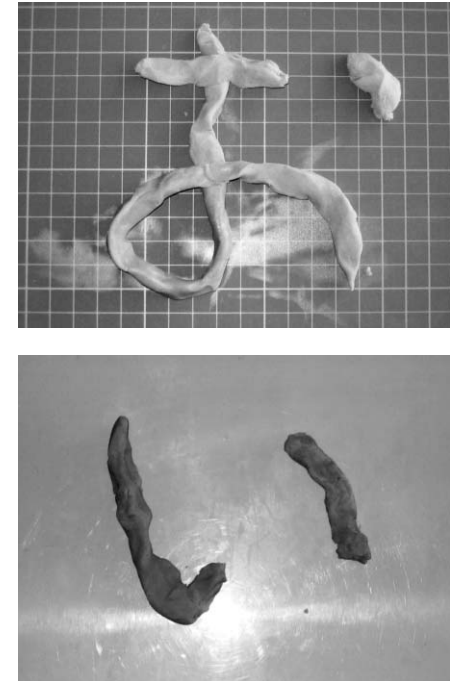
「正しく文字を書くこと、ことばをたくさん指導すること」は、大切である。しかし、一年生にとっては、それをどのように学習していくのが重要である。ノートやプリントに習った文字をひたすら書いていくのではなく、マナー化してしまい、子どもたちも苦痛になってしまふ。絵に描いたり、作ったり、知恵を出し合ったりして、一人ひとりの体験や経験を十分生かしながら意欲を育てる指導に努めたい。

② ことばを見つけ

「かくれことばを見つけ」

一年生の教室には、必ず大きな五十音表がある。ひらがなの学習が始まるまでは、すべての文字を付箋紙などで一文字ずつ隠しておく。そして、ひらがなを一つ学習することにより一枚ずつはがしていくと、習った文字とそうでない文字が全員に一目でわかるようになる。

ひらがなを六〜八文字くらい学習したところで、ことばの入れ替えをして「かくれことばを見つけ」をすると、とても喜んで



(資料3)

その文字に関係のある「ことばを見つけ」をして絵で表現したり、粘土をへびのように細くのばして、大きな粘土文字を作ったりする。(資料3) 子どもたちは、活動を通して文字の形にも気をつけながら、語彙を広げていくことができる。

取り組む。自分の経験の中から一人ひとりが知恵を絞ってことばを探そうになる。知らないことばも友達の話聞いてすぐに取り入れ、クラスの中に「ことば」が広がっていく。一文字習うごとに「ことば」は、どんどん増えていく。その際、始めに紹介した五十音表が大活躍である。

私のクラスでは「お・は・よ・う・い・ち・ね・ん」の八文字から（はち、はね、うち、いち、ちち、はは、よねん、いちは、おちば、いちよう、ようよう、ちようちよ、はい、うん、おい、ねよう、ちようちん）の十七個のかくれことばを見つけ出した。さらに、「え」を習えば『ようちえん』ができるのになあ。」という次への意欲につながる声も聞こえてきた。

③「クラスカラーから」

一年生では、クラスの色（クラスカラー）が、決まっていることが多い。一組が赤、二組が黄色…というように、名札や教室の飾りをその色で統一している。ひらがなを習い始めて「ことば探し」をすると、色を表すことばを見つける子が必ずいる。それをきっかけに、クラスカラーを使ってノート作りをしようとする。ノートは見開きページで使い、赤色のクラスは、右側のページにカラーペンや色鉛筆の赤で「あか」という文字を何回も練習する。そうするとノートは、たちまち真っ赤な文字でいっぱいになる。左半分は、「あかいものあつめ」をする。りんご・名札・おひさま…のように赤いものの絵でいっぱいになる。子どもたちは、一生懸命に赤いものを探して友達とかかわりながら教え合って、「ことば」を広げていく。自分のクラスだけでなく、他のクラスカラーも同様に学習していくとよい。(資料4)

どの子も、笑顔で 生き生きと活動する教室を

武庫川女子大学非常勤講師 曾我 正雄^{まごお}

1 はじめに

はじめる
すぐはじめる
いやいやはじめる
考えてはじめる
見てはじめる
その子なりにはじめる
動きだし
輝きだし
また あした



「はじめる」の詩、いかがでしょうか。新学期、子どもたちは、新しいことと出会うために学校にやってきます。子どもたちは、はじめているのです。

2 幼稚園・保育所の教育内容を知ることから

私たち教師は、子どもたちが幼稚園・保育所でどのような教育を受け、どのような能力を身につけているのかを深く知らず、新一年生に接していることがよくあります。

年長組の子どもたちは、幼稚園や保育所では立派なリーダーでした。自主性も自律性も備わり、自分より小さい子を思いやったり、掃除などもできぱきしたりしてきました。幼稚園や保育所文化の担い手であったのです。しかし、小学校へ入学すればビカビカの一年生として迎えられ、四月の下校は早く、給食や清掃は高学年の児童が手伝ってくれるというのがたいいの学校の実情です。そのことはそのことで意義あることなのでしょうが、何だか甘やかしているように思えてなりません。

幼稚園や保育所では、言葉遊びにしても、随分と高度なことを体験してきています。

・一音一字の発見遊び―葉、齒、目、芽……
・二音からできている言葉集め―かい、いか、たこ……
・三音からできている言葉集め―めだか、かじか……
拗音、長音、拗長音、促音だって知っています。しりとりにしても、言葉しりとりまで経験しているのです。

・煙突は高い↓高いは大人↓大人は先生……

このほかに、絵・劇・体育・遊戯など、いろんなことを身につけて入学してきます。これらの能力を小学校教育で生かしていくことが大切です。五月になれば、何人かは皁月病（学校へ行くのを嫌がること）に罹ります。自分の能力が逼塞（ひっさい）してまった表れのように思われます。

3 子どもへの話しかけ、呼びかけ

いややわ
六才
ね
おかあさん
きょうね
こうえんでね
ドッジボールをしたの
ふーん
ぼくね
五人もあてたの
すごいやろ
ふーん
おかあさん
きいてんの
いややわ

子どもたちは、いろいろな発信をします。それを上手に受けとめ、投げ返していく、親と子、先生と子、子と子の言葉のキャッチボールができれば、どれほど心が満たされることでしょう。

もし、上の詩にあるように、「ね 先生 きょうね こうえんでね ドッジボールをしたの」と話しかけられたら、どう答えますか。「先生 きてんの いややわ」と言われないうことが、心と心をつなぐ最初の出会いです。先生が「ふーん」ではなくて、「うん、それでどうなったの。」と応えてあげれば、子どもたちは満面笑みをたたえて「ぼくね 五人もあてたの すごいやろ」と言うことでしょう。「ほんとっ、すごいね。次は先生も寄せてね。」と言えば、「先生 きてんの いややわ」ではなく、目を輝かせて「うん いいよ ぼく 先生 あてるからね」と言い、詩も随分と違った喜びに満ちた表現として書かれたことでしょう。

次の詩を見てください。この詩には、感動と喜びがあります。

トンネル
六才
トンネルをつくるの
どんどんどん
すなのあなをほるの
あああ
おちちゃった
あとすこしだったのに
こんどはおともだちとほるの
どんどんどん
すなのお山をほっていくの
あっ
おともだちのかおがみえたよ
すなのトンネル
やったね

かつてノーベル化学賞を受けた福井謙一先生が『学問の創造』（佼成出版社）という著書の中で次の文章を入れておられました。

へ私も幼い頃から「泥んこ遊び」が好きだった。少しもったいつけた言い方をすると、自然にからだごと、どっぷり浸るのが好きで、子供の頃の思い出といえは自然とじかに触れ合い、その中で体験したことがほとんどといていい。

それは他愛のない体験だったかもしれないが、書物による知識では得られない自然に対する認識を私に与えてくれた。自然がこの上なく奥深いもの、美しくて微妙であることを、私は生の体験として受けたのである。〜

へこの得難い経験が私にもたらしたものの膨大さにくらべれば、文献を読んで得たものの中で私の仕事に役立ったものの量は、ほんの少しであった——中略——その独創性をはぐくん

背景は少年時代の自然との触れ合いにある、と今の私には明言できる。)

福井先生が言われるように、子どもたちが自然とじかに触れ合う場と時間を意図的につくるのが大切です。

次の詩の子どもとお母さんのやりとりは、そのまま子どもと先生のやりとりである場合もあります。子どもの言葉をどのよう

かにのだっぴ

小学校一年生

おかあさん
ちよっときて

はやく

ね

はやく

どうしたの

いいから きて

ほら

かにが二ひきになってる

かにのだっぴや

ほら

うごいてる

うごいてるやろ

ほんま

すきとおってるな

あかん

いらたらあかん
しんでしまうから

うに受けとめ、どのよう
に投げ返すかで、先生
と子ども人間関係
がつくられていくので
しょう。

先生自身が、実際に
砂場遊びをし、自然の
感触に触れ、感動する
心をもっておくことが、
自然体で子どもと楽し
く会話ができ、ともに
楽しみながら、学級の
質を高めていく基盤に
なります。

言葉遊びや詩を通じ
てじかに感じた感動を
表現し、笑顔いっぱい
で活動する子ども集団
を育てることは、教師
冥利に尽きると言える
でしょう。

4 授業に挑む子どもを育てる

子どもたちが、学校でいちばん長い時間を過ごすのは授業時間です。その授業がおもしろくなければ、充実感や達成感をもつことができず、もやもやとしたものをもったまま四十五分を終えます。学校への魅力も失っていくことでしょう。やはり、学校はわくわく、うきうきして通つてくるところでありたいものです。授業が上手な先生の学級では、生活指導上の問題はあまり起きないと言われています。充実感、充足感があれば問題行動を起こすエネルギーではなく、授業に、教育活動に集中するエネルギーとなって表れるからです。

では、どうすれば「楽しい授業」が展開されるのでしょうか。簡単です。授業を受ける子どもではなく、授業に挑む子どもを育てるのだという意識を指導者もつことから始まります。どうすれば子どもの学ぼうとする気持ちを引き出し、進んで学習に挑む姿勢をつくることができるか、八つの秘訣をここで述べておきます。

(1) 雰囲気があることやかであること

教室内がある硬さを持ち、何となく圧迫感があるところや、反対にざわざわしていて、緊張感のないところではやる気が芽生えにくい。

(2) 学習のめあてがはっきりしていること

それぞれの学習過程で、今学習していることの目標や意味がわかっていることが大切である。

(3) 「やれそうだ」「おもしろそうだ」と思わせること

過去の学習経験や生活経験をもとにしたり、それを想起させたりする導入の指導が大きくものをいう。

5 まとめ

先生のことば

朝の会のことば

下を向いていたら

「顔が青いよ どうしたの」って

額に手をあててくれた

お掃除のとき

雑巾でふいていたら

「いつもがんばってるね」って

頭をなでてくれた

勉強のとき

自信がないけど手をあげて言ったら

「なるほど なるほど」って

うなずいてくれた

先生のことばは

私の心をあたためる

私にやる気を起こさせる

先生のことばは

大きな力

やさしい心

常に、笑顔で質の高い教育を展開したいものです。

上の詩にあるよう

に、先生の力は大きいのです。

ここでは、教育という楽しい仕事を遂行するうえで大切な、三つの「シヨン」を書いておきます。

① ビジョン

(将来への展望)

② ミッション

(使命感)

③ パッション

(熱情・情熱)

この三つの「シヨン」さえしつかりともっていれば、学級経営もうまくいき、どの子ども笑顔で生き生きと活動する教室が誕生します。

この秘訣の上に立って授業実践をすれば、どの子ども生き生きとした笑顔で授業に挑んでくることでしょう。

〔詩の出典〕

『道徳授業技術双書 20 子どもの心に輝きを―先生と親と道徳教育』

藤井喜代美著 (明治図書)

「総合的な学習の時間」と 連携した国語科の学習

新しい指導を考える会

1 子どものエネルギーを言葉の力にするために

国語科の学習には、教室の中だけでは完結しないものもたくさん含まれている。特に調べ学習を伴うものや、それを発信しようとする学習などはそうである。「これをもってみたい。」「これは、おもしろそうだ。」という関心や意欲をもって活動しているとき、子どもたちは実に生き生きと主体的に動く。このとき、子どもたちは「これは国語科の学習だから」というような概念はない。この子どもたちのエネルギーを学習に生かすことによって、より実生活に生きる言葉の学習になるのではないかと考える。

ここでは、「総合的な学習の時間」と連携して展開した二つの国語科学習の実践を通して、言葉の力を身につけるということについて考えていきたい。

2 「なりきり環境会議を開こう」の実践より

■なりきって話し合うことの意義

環境問題についての話し合いの難しさは、子どもたちが、自分とは直接関わりのないところで正論を主張することに

〈できあがった9つのなりきりチーム〉

- ・ヤンキーチーム（4名）
- ・プラスチック研究所（3名）
- ・江戸っ子チーム（3名）
- ・おくさまチーム（3名）
- ・ダイオキシン研究所（3名）
- ・リサイクルチーム（3名）
- ・お魚チーム（3名）
- ・市役所チーム（3名）
- ・ドイツ人チーム（2名）

〈ポイント〉

ヤンキー（環境に興味のない人）チームを作ったことで、話し合いが非常に活発になった。「今の生活をやめるべきだ」との主張に「本当にやめられるのか」という問いかけや、「江戸時代のリサイクルがすばらしいなら、なぜそれが続かなかったのか」という問いかけなど快適な生活を求める本音の話し合いとなった。

チーム作り際には、「自分がどんな主張をしたいのか」「その主張をするために何になりきった方がいいのか」を考えて作るようにした。ヤンキーチームというのは、「環境問題に興味がない人（今の生活を続けていきたい人）」という設定である。このチームが現在の生活の便利などことを追求したおかげで話し合いが深まり、本音の話し合いとなった。

■「総合的な学習の時間」との連携で生きた言葉を育成する

言葉の不思議なところは、いくらしっかりした主張をしても心に残らないものもあるところである。話し方が上手でも実感を伴っていない主張は、迫力に欠け説得力がない。

ある。「ゴミは捨てない方がいいと思います。」「リサイクルをした方がいいと思います。」など、もったいもない意見が出るが、説得力に欠けることも多い。また、調べてきた資料の羅列で終わってしまい、結局退屈な学習になってしまう場合もある。

そこで、「環境会議」を開くにあたり、自分が「何かになりきって」話し合いに参加することにした。魚になって海や川の汚れで困っていることを主張してもいいし、江戸時代の人になって現在の使い捨て社会を批判してもいいことにした。いろいろな立場から環境問題を考えることによって、多様なものの見方ができると考えたからである。また、「自分とは違う別のものになりきる」ことによって、話すことが苦手な子も楽しみながら話し合いができるのではないかと考えた。

■話し合いを活性化するための手だて

話し合いを活性化するための手だてとして、次の4点を考えた。

- 意見が対立するようなテーマを設定する。
大きなテーマは「ゴミ問題」とし、話し合いの議題は「今の生活やめられますか」とする。
- 聞き合いを有効に機能させるために、インフォメーションギャップ（情報格差）を生かす。
- チーム内で役割分担し、説得力ある主張を作る。
- なりきって主張したり、反論したりできるような場の設定をする。

そういう意味で、資料を読んで写しただけの主張は弱い。自分たちの目で確かめ、足で稼いだ事実を突きつけられたとき、「なるほどそうか」と本当の意味で共感できるのではないだろうか。

調査内容・調査方法を決め、なるべく自分たちの目で見たり、確かめてみたことから主張の根拠となる資料を作るようにした。インターネットや本などの資料はたくさんあるが、自分たちで確かめるとなると、時間もかかるし効率も悪いように感じる。しかし、このような時間の中にこそ、説得力のある言葉の源となる思いが育っているように感じる。

例えば「おくさまチーム」は、ハンバーガーショップやコンビニでお弁当を買ってきて、どれだけのゴミがでるかを模造紙に貼って掲示し、その量の多さや種類の複雑さを訴えていた。また、「お魚チーム」は、家庭用食器洗い洗剤と食洗器用の洗剤とを比較しどちらが環境にいいのかを訴えたり、「市役所チーム」は自分たちの町のゴミが一体どのくらいの量になるのか、それをどのように処理しているのか、お金はどのくらいかかっているのかなどを市役所の人にインタビューして自分たちの主張を作った。「リサイクルチーム」もリサイクルの仕方を学び、自分たちが実践することによって、リサイクルの大切さを感じ取ると同時にその大変さにも気づいていった。

このように、「総合的な学習の時間」と連携することによって、単なる机上の話し合いとならず、「私たちもやってみただけで…」など実感の伴った話し合いにすることができた。

■言葉によって自分を振り返る力

話し合い後の感想で「私はヤンキーチームを責めました。環境問題に興味がないなんて無責任だと思っていました。でも、ヤンキーチームがやっていることや言っていることは、今の私がやっていることと同じでした。私は、これまでにいかに環境に無責任だったかをこの話し合いで知りました。」という言葉が出され、多くの子がこの言葉に共感していた。時間をかけて主張を作り、根拠を探り話し合うことの大切さを知った学習である。

3 テレビ局との連携で実現した番組作り

■小学生による小学生のための教養番組「作家の教室」

私の住んでいる地域には、地元に着した番組を作り、放映しているテレビ局がある。この実践は、国語科の学習で行った作家についての調べ学習を、「総合的な学習の時間」と連携させてテレビ番組に作りあげた実践である。目的がはっきりした学習には子どもたちは真剣に取り組む。テレビ局で働く人からのアドバイスを受けながら番組作りの手法を学び、子どもたちは、大変さと同時に作りあげた時の喜びも味わう。「総合的な学習の時間」に毎週一回、三度にわたって指導助言をいただいた上で、最終的には本格的な機材を持ち込み、四時間を費やしての撮影で番組を作りあげた実践である。実際にテレビ番組として放映されたことも子どもたちにとっては大きな喜びとなった。

■バーチャルインタビューでの作家紹介

調べ学習で得た作家についての情報を視聴者に伝えるために『バーチャルインタビュー』という形で作家紹介をすることにした。

調べ学習をもとに「作家になったつもり」で答えるのだが、「新美南吉が甘いものが好きだった」「あまんきみこと宮川ひろは親友だった」「モチモチの木は教科書に載ることになって訂正された箇所がある。」など、自分たちしか知らない情報が宝物となった。また、いかに視聴者を引きつける情報を手に入れるかがポイントとなった。

■撮影開始で学んだこと

「ぜひ、番組作りに協力したい。」という心強い言葉いただき、局長さん自らが毎週「総合的な学習の時間」に来て、番組作りのアドバイスをしてくださった。話すことに夢中になっていた子どもたちに、「カメラを通して番組を見させるとよい。」というアドバイスをいただき、ビデオ撮影も子どもたちが行った。

このことによって、カメラマンとしての視線もでき、「話す人があっちこっちにいるとカメラが追いつかない。」「しゃべりだけでは分からないから、ボードで説明した方がよい。」「インタビュの時は、カメラ目線じゃないほうがよい。」など新しい気づきが番組に生かされた。視聴者を意識した気づきが多く出され、自己満足な番組作りから脱却していくきっかけとなっていた。

■作家の生き方と作品を結びつけて読む

今回の学習の大きなねらいは、作家の生き方と作品を結びつけて読み、調べたことをもとに発信するということがある。読む学習は受け身になりがちだが、「番組を作る」とことでこれまでの学習と違った視点が加わることを期待した。

読書指導は、読みを子どもに任せるという点で読解指導

と異なるが、グループの相互交流学習において、自分の読みの振り返りとお互いの意見交換を行い作品について話し合うことで、読みの客観性を求めた。また、好きな作品のあらすじやお気に入りの場面、何を伝えたかったのかなどを書いてまとめ、確かな読みを作るようにした。

番組作りに至る学習活動の流れ

- ① これまで教科書に載っていた話を全部読む。
(光村ライブラリー全18巻を使用)
- ② 読書カードに気に入った本に○をつけ、お気に入りの作家を見つける。
- ③ 自分が見つけたお気に入りの作家の本をたくさん読む。
- ④ お気に入りの作家の本の中でおすすめしたい本を見つける。
- ⑤ お気に入りの作家についての資料を集める。
- ⑥ 番組作りを始める。

調べた作家

- ・新美南吉 (4名)
- ・斎藤隆介 (4名)
- ・安房直子 (3名)
- ・今西祐行 (3名)
- ・宮川ひろ (5名)
- ・あまんきみこ (2名)
- ・那須正幹 (3名)
- ・小川未明 (3名)

局長さんからのアドバイス

- ☆番組は、小学校三年生が分かるような内容を旨としたほうがよい。
- ☆番組を構成するときには、それぞれに役割分担がある。役割をはっきりさせる必要がある。
- ☆視聴者によくわかる工夫、例えばボードに書いたものを見せるなど見せる工夫を！
- ☆メインキャスターとなる人は、番組の進行役。大変だけれども、番組全体を見渡した進行をする。
- ☆助詞(て、に、を、は)は、はっきり話すのだが、強くないようにする。
- ☆アナウンスの時には、伝えたい言葉を強調して話すように意識する。
- ☆語尾を強くしないように話した方がよい。

〈学習を終えた児童の感想〉

四か月にわたってやったので、はじめのころとはかなりたくさん変えたし、局長さんにアドバイスしてもらって数倍うまくなったと思います。テレビにでるということで、普通よりも難しい面もあった大変でした。でも、斎藤隆介さんのことなら、誰にも負けないくらい調べて頭にインプットしました。それに斎藤さんのことがすごく好きになりました。

■実の場を生かした醍醐味

実際に放映するという実の場を学習活動に取り入れることにより学習に緊張感が生まれ、子どもたちが主体的に学習に取り組んでいた。また、テレビ局のプロのアドバイスにより、子どもたちが「その気」になって、力を発揮する姿も多く見られた。子どもたちは、その気になると少々ハードルの高い学習でも成し遂げる。そしてその充実感、達成感が次の言葉の学習への意欲につながると考える。

子どもたち一人ひとりの国語の力を伸ばすには、どんな授業を考えればいいのでしょうか。
ここでのヒントをもとに、明日からの授業にチャレンジしてください。

さあチャレンジ！

子どもを伸ばす国語授業のヒント（最終回）

次の授業に生かす 学習の技術と心

前青山学院大学講師

岩崎 保

毎日の学習は、昨日の続きが今日であり、今日の続きが明日の楽しみになっていくものです。次の授業に新しい課題をもち、期待を膨らませている児童がそこにいることが、教師の願いだと思っています。そうした授業を続ける学習習慣の技術と心を生につけさせていくことが、教師の知恵と工夫なのです。

そのためには、教材をシャープにとらえた具体性のある言葉で、毎時間の学習課題を提示することが大切です。そして、学習の結論を児童が納得できる内容にまとめて次の授業の学習課題を設定し、児童と確認し合うことです。学習を展開する中で、発言や聞き方の約束を作ることにも有効です。

こうした学習法の習慣化が、児童の自主性や自立性、学習意欲を高めることは間違いありません。

模造紙一枚くらいの大きさにしたいです。わたしの劇の発表にしたいのですか。

◎なるほどね。みんな、どう思いますか。

c すごくいいと思います。僕も手伝いたいです。

c こういうグループを作ったらいいいと思います。

c 賛成です。（全員）

c おじいさんが転んだときに、驚いて騒ぐ村人はどうかな。

c わたしもせりふを言いたいし、何回言えるか楽しみです。

c 今思ったんだけど、おじいさんが自分で転がるところでも、応援の子どもや村人がいてもいいよね。

◎よく分かりました。工夫がどんどん出てきましたね。みんなが劇を楽しむにしていることも、よく分かりました。グループでも、いろいろ工夫ができますよ。では、次の時間から、登場人物を増やす場面と増やしたいせりふを考えながら、読み進めましょう。

2 第2次5時間目の場面——想像する楽しさを表現する姿

うれしがってとうげを転がるおじいさんの様子と、歌を歌ってはげますトルトリの様子を劇に生かそうと工夫する授業です。

◎おじいさんは、トルトリが考えた話を信じていますか。

c 初めは、「ばかな。わしに、もつと早く死ねと言うのか。」と怒っていました。

c でもね、よく考えたら、「うん、なるほど、なるほど。」と言って、だんだん分かってくる、信じてきました。

c よく分かったら、もうじつとしていられなくて、ふとんからはね起きて、「三年とうげ」に上っていききました。

c そして、わざとひっくりかえり、何回も転びました。おじいさんの気持ちがかわって、病気が治りそうです。

ー 今日、何が学習したのか、児童一人ひとりがとらえられるように——『三年とうげ』（三上）

1 第1次3時間目の場面——単元目標の内容を考え、自分の願いを求める姿

ここでは、「台本を作って劇をしよう」という単元を設定し、学習の展開の一コマとして、学級の全員が出演することを願って、台本を作ることにしました。台本作りの計画を立てる学習の中で、おおよその場面分けをしてグループで分担することになりました。第1次最後の学習目標は、「みんなが劇をするにはどんな工夫をしたらよいですか。」としました。

（◎は発問、cは児童の考え）

◎台本作りで工夫したいことを発表してください。

c 必ず一人ひとりと、せりふを言えるようにしたいです。

c 賛成。だから、登場人物を増やしたいです。たとえば、美しい「三年とうげ」をお

じいさんが眺めるところで、村人何人かに、言い伝えのうわさをしながら歩かせるのもいいと思います。

c なるほど、いいな。だった

ら、ナレーターも場面ご

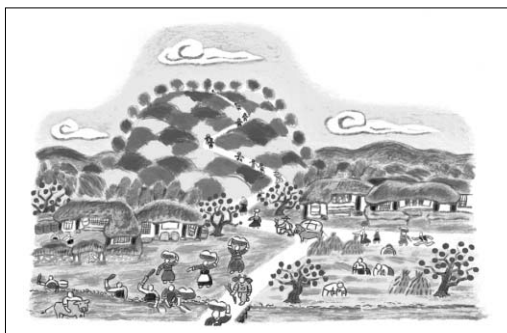
とに交代してもいいね。

c 秋のとうげの美しさを想像

像して、劇の背景にしたい

です。わたしは色や形

や種類などを考えます。



▲三上 P54・55の挿絵（朴民宜／絵）

◎そうでしたね。そこで、今日のこの時間では何を考えればいいのですか。学習のめあてを確かめましょう。

c 「ぬるでの木のかげから歌を歌ったのは、いったいだれなのか。何のために歌ったのか。」を考えて、せりふも作ります。

◎（めあてを板書し、全員で音読）では先に、だれが歌っているのですか。

c 名前は書いてなくても、歌ったのはもちろんトルトリだよ。

c だって、おじいさんが病気になるのを知っているのは、

トルトリとおばあさんな

んだから。わざわざこわ

い言い伝えのあるとうげ

に行くとは、村の人たち

は思わないよね。

c そう思います。おじいさ

んは、トルトリの言葉で

考え直して勇気が出たん

だから、一人で一生懸命

転がります。

c おじいさんが言う言葉な

んだけど、「ようし、転

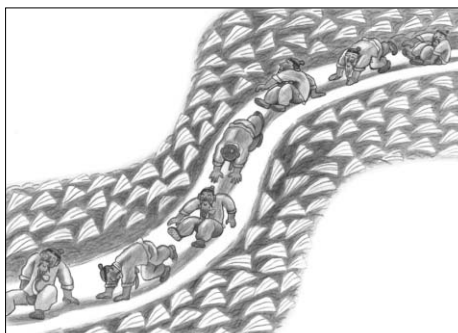
がるぞ。何回も転がって長生きするんじや。」というのは

どうですか。

◎なるほど。歌ったのはトルトリでいいですね。では、どうして歌ったのですか。

c おじいさんにもっと勇気をもたせようとしたのです。

c トルトリが教えた歌が聞こえれば、トルトリの話は本当だったんだと、もつと勇気が出ます。



▲三上 P60・61の挿絵（朴民宜／絵）

c だから、先回りして歌ったんだと思うな。そして、「このときです。」のころをナレーターが言ってから、歌えばいいと思うよ。

c わたしたちのグループは、「楽しくなるように調子よく歌う」とト書きに書きました。

c だったら、トリトルは友達を連れてきて、合唱したらどうですか。そして、小さい声で「おじいさん、がんばれ。」って応援してもいいと思います。

c 木のかげでトルトリが、「ああよかった。おじいさんが本当に転がった。」とつぶやくようにします。

c ぼくたちは、「何回も歌を歌う」と書きました。

c 歌うところで「手拍子をつけながら歌う」とト書きに書きました。

c 最後のおじいさんは、けろけろけろっとしたポーズをみんなで考えました。B君がいちばんうまかったです。

◎想像力を働かせて、楽しく工夫できましたね。昔話ですから、歌を歌った人の名前をなぞかけのように読む人の想像に任せているんですね。では、明日からは、グループごとに計画して、練習することにししましょう。

この単元で台本作りをする際、教師の準備として、まず全文をプリントし、そのまま使える文章は色画用紙に切り貼りし、せりふの付け足しやト書きなどは罫紙に書いて、行間に貼るようになりました。

その後の学習では、書き加えや書き直しをしてから音読練習したり、切り貼りして作った台本で、役割を決めて音読を始めたりました。今何をしたいか、何をすればよいかを自主的にグループで判断し、計画して活動できました。学習発表会は、

えたりしてはげますぞ。

- ・間違えていても、揚げ足取りやブーイングはしないぞ。
- ・新しい意見やすてきな発見には、拍手の応援をするぞ。
- ・人の話を聞いて理解できる人は、賢いことを知るぞ。

2 教師の言葉と行動、そして心配りで活性化を

児童にそれを求めるだけでなく、教師は、学級一の「聞き取り名人」にならなければなりません。もちろん、間違った発言も学習の中で生かしていくのです。間違えた理由を友達と考えさせ、正解を理解させてから、「あなたが間違えたおかげで、みんなもよく分かりよい勉強ができました。」と励ますことができます。

教師が何気なく使う言葉の中に、児童を生かしたりつぶしたりしているものがあります。それが、発言しない原因を作っていることも少なくありません。授業を進め急ぐため、教師の考えを押し付けたり、発言を切り捨てたりしていないでしょうか。注意してほしい例を示します。

- ・（発言の直後に）だれか、ほかのいいませんか。〔無視〕
- ・前の子に比べていい意見だったね。〔前者否定〕
- ・そんなこと聞いてないだろう。よく考えろ。〔断定〕
- ・その考えは、ここが違うんだよ。分からないか。
- ・分かる人は手を挙げて。なんだ、これだけか。

〔発言の固定化〕

これでは発言しなくなつて当たり前です。どんな発言でも温かく迎え、耳を傾けてうなずき聞いてやる「時間と心のゆとり」が必要なのです。もし児童に元気がなく、顔が下を向いて発言が少なかったり、誤答が多いと感じたりしたときは、

全員が大満足の様子でした。

二 毎日の学習で、活発に発言させる工夫と習慣化のために

国語の授業の中で、児童の「発言」は、教師の発問に対する「応答」だけでなく、「児童相互の意見交換や質疑応答」でも重要なものになります。児童は、発言によって自分の考えをまとめたり、理解を深めたりしています。また、友達の発言を「聞くこと」によって、自分が気づかなかった事柄に気づくことも多いはずです。発言が活発になればなるほど、理解し思考する活動も盛んになるのです。

1 話しやすく発言しやすい学級経営の日常化に向かって

児童が発言しない理由の多くは、「間違えると恥ずかしい」「自信がない」ということにあります。ですから、たとえ間違つても笑つたり非難したりせず、一人の発言が尊重される「心のケア」が求められます。これは、教師と児童のコミュニケーションと信頼の上に成立する学級経営の基本であり、教育の第一歩ととらえるべきです。

「聞き上手」の約束を児童と話し合つて決めておき、それを習慣化して、聞く力に自信をつけ、話す力の自信に変容させるのもその方策です。その一例を示します。

「聞き取り名人になろう」

- ・友達の発言は、目を見ながら、最後まできちんと聞くぞ。
- ・共感したり、賛成したりしたいときは、うなずきながら聞くぞ。
- ・声が小さかったら、もっと静かにして聞くぞ。
- ・自信がなさそうな友達には、付け足したり、いっしょに考

- ・発問に誤りや欠陥がないか。
- ・学年や学級の実態に合った言葉を使っているか。
- ・発問内容が児童の思考に合っているか。
- ・発問した後、考える時間を与えているか。
- ・発言者が偏っていないか。
- ・よい発言や答えをほめてやっているか。
- ・児童と教師が信頼し合っているか。
- ・など、自らに問いかけ、反省し修正できる教師が必要なのです。そして、直ちに発問のしかた、内容を修正して、「ごめんなさい。もう一度問題を出し直します。」と言える、児童の心情を敏感に理解できる教師でありたいものです。
- 教師と児童の心が信頼でつながった学び合いこそ、授業を活性化させる源です。児童の発言意欲が高まり、目を輝かせた明るい笑顔が広がる学級が、そこにあると思います。

最後に、児童の発言を促す発問の工夫を挙げておきます。明日からの授業の参考にしてください。

- ・どこが自分の意見と同じか。
- ・この話で、説明が不十分なのはどこか。
- ・友達の発言を比べて、どれに賛成するか。
- ・どんなところが自分の考えと違うか。
- ・この意見をもっと分かりやすいものにできるか。
- ・先生や友達に、確かめたり質問したりすることはないか。
- ・これまでの意見をまとめることができるか。

これらは、一問一答の授業にならないための工夫、集団思考に向かうための工夫ともいえます。児童一人ひとりが深く考え、視野を広げ、納得して友達を思い、教師を見つめる学級作りを目ざしたいものです。

教材理解・児童理解にもとづく究極の授業

一徹国語人

東京からJR東海道線で西へ一時間ほど行ったところに平塚市がある。相模川の西に位置し、湘南地方屈指の発展都市でありながら、四八〇〇mにおよぶ海岸線から西北に末広がりに緑地があやなし、平野・砂丘・丘陵・台地・山麓など、自然環境にめぐまれた地域である。また、昔から東海道五十三次の宿場として栄えた土地として、多くの人たちに知られたところでもある。

今回邪魔したのは、二十八校ある平塚市立小学校の一枚で、校庭内に森林公園や水生生物池などをもち、学校全体で国語の授業研究に取り組んでいる、松が丘小学校という学校である。

授業を見せてくれたのは、その推進

役をしている六年二組の担任、五十嵐透先生。授業は「人物の生き方を考えよう」という単元で、立松和平氏の『海の命』という教材を使った読解学習であった。

五十嵐先生は日ごろから「環境」ということにこだわり、人間環境・社会環境・自然環境に関連する内容を、いろいろな学習の場で児童に語りかけ、考えさせてきたとのことである。

そこで今回は、六年生の学習目標である「ハピネス―自分の幸せ、みんなの幸せを願って行動しよう」という視点を意識させつつ、本当の豊かさとはいったい何なのかを考えるきっかけに、この教材を読み解く学習を展開させた

ということであった。

授業を参観してまず驚いたことは、五十嵐先生が教科書をまったく見なかったということだ。

本時の目標は、「話す・聞く」「書く」を技能目標として話し合い活動をするのであった。具体的には、

・『海の命』から学んだことを相手に伝えるように工夫して話すことができる。

・友達の考えを聞いて、ノートにまとめることができる。

の二つである。

つまり、個々の児童の発表を柱とした学習展開なので、教科書は使用しなくてもできるのかと、教室に入ったと

きは考えた。ところが、実際はそういうことではなかった。

五十嵐先生は、立松和平氏の原作はもちろん、いくつかの教科書会社の同一作品の読み比べもあり、そのうえこの教材の（キーワードのページや行数も含む）全文を暗記していたのだ。

もつとびつくりしたのは、児童全員（三十九名）の一読後の感想文を一人ひとりの感想内容を類別した上で、印刷して児童に配布していたのだが、それも誰が何に心を動かされ、どんな考えをもっているのかまでそっくりそらんじていたことだ。

感想文を書かせたのは二十分間だったという。平均字数は二六〇字で、六文構成が大半であったが、長いものは約六〇〇字が二人、三〇〇字程度が十三人。何も書けない子は三人だった。

五十嵐先生はこの単元を十一時間扱いとして、そのうち最後の二時間は「立松和平さんの世界にふれる」というテーマで発展読書をさせる計画とした。

つまり、読み解く学習は実質九時間である。

私が参観したのは最終に近い八時間目だが、前の時間に「主題に対する自分の考えをまとめる」という学習があり、その文章をもとに発表会が行われていた。

そこですます驚かされたのは、五十嵐先生はこのときの児童の感想文の内容も、全員分暗記していたことである。

児童に司会をさせる話し合い学習が多い昨今である。発言者が次の発言者を指名する方式で、一見活発そうな自由発表学習もよく見かける。しかし、今回見せていただいた発表・話し合い学習では、先生が徹頭徹尾、児童の感じたこと、考えたことを知り尽くし、この教材の内容と価値を十分に分析したうえで、児童一人ひとりの個性や思いを生かしつつ、より深く、より広く、より高い読みへと全員を誘っていく『師の高度な技』を見せてもらえたので

ある。まさに『師』が存在する国語教室というものを、この日私は十分に味わったのである。

教材理解・児童理解にもとづく究極の授業とは、すべてを暗記することにあるのかもしれないと感じた次第である。



校内にある「自然学習園」

一徹国語人にご意見・ご質問がある方は、広報部までお便りをお寄せください。
一徹国語人がお返事をいたします。お便りは、誌上にて紹介させていただきます。
りますので、あらかじめご了承ください。
FAX: 03-3493-5483
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

毎日の授業や子どもとの接し方に悩む若い先生たち。
こんな小さなきっかけから子どもが変わります。

手間をかける

京都女子大学教授 ^{よしなが}吉永 ^{こうし}幸司

1 あの子は手間がかかる？

「教科書とノートを出しましょう。」
「帰る用意をします。」

と、授業の始まりや、生活の節々で指示を出します。その都度、少しずつ行動が遅れる子が、教室には必ずいます。いわゆる、手間がかかる子です。

そういう子は、急いでいるときに限って、遅れたりしますから、担任としてはたまりません。

本来は、動作や行動が遅い子を、手際よく行動させたり、見通しをもって動作ができるようにすることが大事なことは分かっているのですが、「あの子は手間がかかる子」として見てしまいます。

日常の忙しさに追われて「早くしましょう。」と指示をすることで済ませてしまいうことが多いのです。その結果、いつまでもたつても手間がかかる子のままです。

2 よい授業は手間がかかっている

若いころのことです。授業のしかたをきめ細かく教えてもらい、研究授業をし

ました。先輩が事前に、同じ指導案で模範の授業をしていましたので、自分の学級でも先輩のようにできると思い込んでいました。しかし、

「今日の目標を言います。」
「考えを発表しましょう。」

と、指導案どおりに指示をし、発言を板書したのに、授業の結果は散々なものでした。指導案が立派だったらいよい授業ができると思い込んでいたのですから、先輩との違いに驚きました。

先輩との違いは、授業までの手間のかけかたであるということに気づくのに、時間はかかりませんでした。

先輩は日ごろから、発言のしかた、ノートの書き方を丁寧に指導していました。ですから、「書きましょう。」と指示を出せば、すぐに鉛筆が動く教室でした。

それだけでなく、先輩は、何が書いてあるか、子どもたちの感想をどこで生かすかということを考えながらノートを読み、授業で効果的に活用していたのです。「書きましょう。」「読みましょう。」という指示をして、考えた気持ちになってい

た自分の授業とは、日ごろの手間のかけ方や授業前の心づもりが違うことを感じたのです。

ノートをしっかりと読む、板書の計画を立てる、授業の記録を残すなど、良い授業をするためには、時間がかかるものなのです。でも、若いころは、時間をかけるのは無駄のように思っていました。

3 「手間がかかる」と「手間をかける」

授業で大事なことの一つに、ノートの指導があります。

国語の授業で、書くことを大事にしていくと、考える力だけでなく、学習の内容を確実に理解する力が育ちます。書くことを大事にするうえで、一番適切な方法は、ノートの指導です。ノートを書くことは大事な学習活動ですから丁寧に指導してほしい、と若い先生にお伝えする機会がたびたびありますが、理屈は理解できても、実際の授業では手が回らないことが多いようです。

若い先生の研究授業を参観したときのことです。指導案には、授業の中ほどと

後半に、二回も「書く」活動が予定されていました。「自分の考えを書く」という内容でしたから、期待して参観しました。

しかし、授業では話し合いが延々と続き、書く活動の時間はありませんでした。指導案と違った進め方でしたので理由を聞いたところ、

「書かせるとできる子とできない子の個人差が出てしまうのです。」

「書かせると時間がかかるし、その時間をもつたいたないので省きました。」

という返事でした。書く活動を授業に取り入れるのには時間がかかり、能率的でないというのが本音だったようです。「手間がかかる」から避けたのです。

授業でよく見かけるのは、「わかりましたね。」と念を押し、「はい。」とわずくことで理解できていると評価する様子です。一見、なめらかに授業が進んでいるように見えますが、書くことに時間をかけることを敬遠したということでしょう。

ノート指導は、「手間がかかる」のが当然です。しかし、「手間をかける」ことで子どもが伸びるのですから、おろそかにはできません。

4 「手間がかかる子」には手間をかけて育てる

よい授業をするには、手間をかけることが大切です。「書くことは時間がかかる。」と嘆いていた若い先生が、気持ちを入れ替えてノート指導に取り組みしました。

文章を書き写す活動では、口頭で「教科書を写しなさい。」と指示することをやめて手本を作り、それを全員に配ることから始めました。手本どおりに写せば丁寧に仕上がるという仕組みです。

手本を作るという手間のかけかたが、書く活動を促し、丁寧にノートが作れる子を増やし、その後、書くことが授業に位置づくようになったそうです。

「手間がかかる子」も同じです。口頭で指示をするだけでなく、あらかじめ、手間がかかることを予測して、行動の順序や手順を教えたり、個別指導を繰り返すのです。行動の規範を丁寧に教えるという、いわゆる「手間をかけて育てる」ことが大事だと思います。

入門期の書写指導

適切な筆圧で、正しく整った文字を書こう――

新しい指導を考える会

1 実践の趣旨

春、四月。一年生にとっては、小学校生活の始まりの季節である。子どもも親も、どんな学校生活が待っているのだろう、どんな学習をするのだろうと期待に胸を膨らませて入学してくる。私たち教師も、「さあ、学校生活の第一歩だ。」と、一年生との出会いを楽しみにしている。

一年生の担任をしていて感じることは、どの子も「早く鉛筆を持って文字を書きたい。」という意欲がとても強いということだ。また、入学以前に家庭や幼稚園、保育所で鉛筆を持ち、文字を習得してくる児童もかなりいて、「自分の名前を書けるよ。もつといっぱい字を書いて勉強したい。」と意欲に満ちている。このやる気の火を消すことのないように、大切にしたいと思う。

ところが、実際に鉛筆を持たせてみると、正しい鉛筆の持ち方ができる児童は全体の半数ほどで、残りの児童はすでに我流で鉛筆を持っていることに気づく。また、年々感じることは、筆圧をかけて文字を書くことができない児童が増えて

いるという実態である。まっすぐ引くはずの画が、色も薄くひよろひよろとうねっている。文字の始筆も終筆も、止まった形跡がなく、いつの間にか書き始め、いつの間にか鉛筆を離れている。

筆圧が適度にかかった「正しく整った文字」を書くことができるようにすること、それが一年生担任に与えられた最初の課題だと考え、入門期である一学期は、次の二点を目標に書写の指導を行おうと考えた。

◆正しい姿勢、正しい鉛筆の持ち方を理解して書く。

◆平仮名の外形・筆順・点画の終筆や送筆の書き方を理解して書く。

具体的には、次のような指導を行った。

○適度な筆圧がかかった文字を書くため、「指の体操」や「消しゴムクレール鉛筆を使った練習」など、指先の巧緻性を高める活動を随時取り入れる。

○平仮名を系統化して指導し、基礎・基本の定着を図る。

・「外形（真四角・縦長四角・横長四角など）を理解して書く」もの（け・も・へ）
・「筆順に気をつけて書く」もの（は・な）
・「画の終わり（止め・はね・払い）を学習する」もの（く・か・う）

・「画の途中（折れ、曲がり、結び）を学習する」もの（わ・ひ・ま・す）
ここでは、「平仮名にはいろいろな外形があることを知り、外形と終筆に気をつけていていねいに書く」ことを目標とした指導を紹介する。

2 指導計画（全3時間）

- 【目標】 ◎平仮名の外形（真四角・縦長四角・横長四角）を理解して書く。
◎点画の終筆の書き方を理解して書く。
◎平仮名の外形、終筆を意識して、自分だけの時間割表を書く。

学習内容と児童の活動		教師の支援
第1次（本時）	外形に気をつけて書く 1. 指の体操と「くるくるのの字」の練習をする。 2. 本時のめあてを知る。 <u>じのかたち きをつけて かこう</u> 3. 「わに」「うし」「いぬ」それぞれの動物にぴったりする字を探す。 4. 探した字を発表し合う。 5. 外形に気をつけていねいに書く。 6. 学習の振り返りをする。	・指の体操と「くるくるのの字」の練習をして、リラックスして文字を書こうという気持ちにする。 ・「わに」「うし」「いぬ」の動物の形をかたどったカードを用意しておき、外形に目を向けさせるようにする。 ・外形を意識させるため、長方形・正方形の影を入れた練習用紙を用意する。
第2次	終筆に気をつけて書く 1. 指の体操と「ジグザグびよんびよんの線」の練習をする。 2. 本時のめあてを知る。 <u>かくのおわりに きをつけて かこう</u> 3. 「く」「か」「う」の終筆を調べ、止め・はね・払いがあることを知る。 4. 止め・はね・払いを身体や音声で表現する。 5. 終筆を意識しながら、ていねいに書く。 6. ほかに、止め・はね・払いを含む字を探す。 7. 学習の振り返りをする。	・指の体操と「ジグザグびよんびよんの線」の練習をして、楽しく書写に取り組もうという気持ちを持たせる。 ・大きな虫めがねを用意し、画の終わりに着目させ、止め・はね・払いを意識させる。 ・止め（ぎゅっ）、はね（びよん）、払い（すうっ）と言いながら大きく空書きし、終筆に意識を向けさせる。
第3次	学習したことを生かして書く 1. 指の体操と「くるくるのの字」「ジグザグびよんびよんの線」の練習をする。 2. 本時のめあてを知る。 <u>じのかたち、かくのおわりに きをつけて、じぶんだけのじかんわりひょうを かこう</u> 3. 前時までの学習を生かして、時間割表に教科名を書く。 4. 確かめる。 5. 学習のまとめをする。	・前時までの学習を振り返り、文字の外形と終筆に気をつけて書くことを知らせる。 ・「自分だけの時間割表を作ろう」という目標を掲げ、楽しみながら教科名の練習ができるようにする。

〈評価規準〉

	おおむね満足できる状況	努力を要する児童への手立て
関心意欲態度	○「け」「も」「へ」の外形に関心をもって調べている。 ○「く」「か」「う」の終筆に興味をもって調べている。	・動物の形をかたどったカードを用意しておき、外形に目を向けさせるようにする。 ・大きな虫めがねを用意し、画の終わりに着目させ、止め・はね・払いを意識させる。
知識理解	○平仮名の外形を理解している。 ○平仮名の終筆には、止め・はね・払いがあることを知っている。	・机間指導を行い、外形を説明する。 ・画の終筆を言葉【止め（ぎゅっ）、はね（びよん）、払い（すうっ）】で表しながら空書きさせる。
技能	○外形に注意して「わに」「うし」「いぬ」などの語句を書いている。 ○終筆に注意して「くご」などの語句を書いている。 ○外形や終筆に注意して時間割表に教科名を書いている。	・補助線を入れた練習用紙を用意したり、個別指導を行ったりする。

4 実践から得られたことと今後の課題

平仮名の外形をとらえさせるために、「わに」「うし」「いぬ」の動物の形をかたどったカードを用いたが、子どもたちは、意欲的に「わに」の仲間の字や「うし」の仲間の字を探し、外形を意識することができた。また、長方形や正方形の影を入れたワークシートを用意したが、これも、一年生が形をとらえるのに有効であったと思う。

しかし、個人差が大きいことには変わりがない。いくら外形をとらえられても、自分の思ったとおりに鉛筆を動かすことができず、結果として字形が整わない児童もいる。指先の巧緻性は、一朝一夕に身につくものではない。できるようになったことをほめ、長い目で見守りながら指導を継続しなければならない。指先をほぐす体操や消しゴムクレン鉛筆を用いた指先の訓練は、授業のなかだけではなく、遊び感覚で休み時間などにも取り組むようにしてきた。子どもたちは「字が上手になる体操」とよんで誰が速くできるかなど、楽しそうに取り組んでいる。

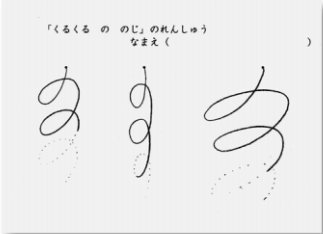
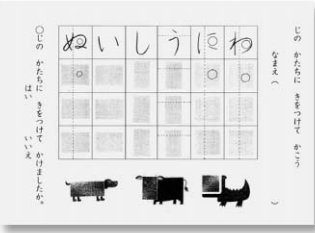
一年生の一学期、国語の時間はすべて書写の学習であると言っても過言ではない。楽しく基礎・基本が定着できるように教材を工夫することが大切である。下に載せたものは、同じ児童が四月と一月に自分の名前を書いたものである。

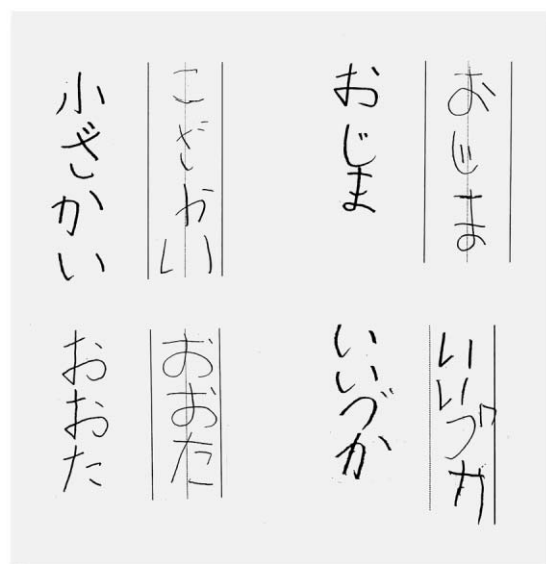
どの児童も、文字の外形を意識し、送筆や終筆にも意識が向いていることが見てとれる。なにより、筆圧が適度にかかったしっかりとした文字を書くことができるようになった。

今後、「書写っておもしろい」「書写大好き。」と子どもたちが目を輝かせて取り組めるような教材を工夫していきたい。

3 本時の展開 (第1次)

- 【目標】 ◎平仮名の外形には真四角や縦長四角、横長四角などいろいろな形があることに気づく。
◎平仮名の外形を理解して、ていねいに書く。

学習活動・指導上の留意点と支援(○)	学習の様子
1. 指先をほぐす体操をする。 - 指の体操と「くるくる の の字」の練習をする。 - 指の体操を一緒にする。また、「くるくる の の字」は黒板に大きく書いて示す。 - 時間があれば「消しゴムクレン鉛筆」を用いた指先の訓練をする。 2. 学習のめあてを知る。 じの かたちに きを つけて かこう。 「わに」「うし」「いぬ」が示す形はどんな形か確認し、それに合う形の字があることを知らせる。 「わに」「うし」「いぬ」の形を切り抜いた絵カードを用意する。 3. 「わに」「うし」「いぬ」それぞれの動物にぴたり合う字を探す。 - 教科書の「ひらがなの ひょう」を見ながら、形の仲間探しをする。 「わに」「うし」「いぬ」以外の形にも気づく児童がいたら、軽く触れておく。 (例) 逆三角形(きつね)の形…す、て、や など 三角形(やま)の形…え、ふ、み など 4. 探した字を発表し合う。 「わに」の仲間…わ、に、お、け、せ、た、ほ、む など 「うし」の仲間…う、し、も、ま、く など 「いぬ」の仲間…い、ぬ、つ、へ など 5. 外形に気をつけてていねいに書く。 - 外形を意識させるため、長方形・正方形の陰を入れた練習用紙を用意する。 「わ」「う」「ぬ」などの平仮名を書く際は、「くるくる の の字」で練習したように鉛筆を動かすことを伝える。 6. 学習のまとめをする。 - 今日の学習で分かったことを発表し合う。 平仮名の形には、「わに」の形や「うし」の形、「いぬ」の形などがある。	▼ 指先をほぐす体操 <その1>人差し指ぐるぐる、親指ぐるぐる  <その2>指の階段のぼり  <その3>消しゴムクレン鉛筆 (国語教育相談室No.47参照) 時間が空いたときに随時活用している。  ◀「くるくる の の字」の練習用ワークシート  外形を意識させるための練習用紙 



就学直後から始まる書写の学習は、児童にとって本格的な書字活動の出発点であり、書写力の基盤を形成する大切な時期でもあります。書写力の基盤となる文字を書く姿勢、筆記具の持ち方、さまざまな字形の認識などについては、型どおりの指導では十分な効果は期待できません。本授業実践では、児童の指先の巧緻性を高めるための工夫、文字を書くことへの興味・関心を高めるための調べ学習や発表、そして学習成果を時間割表作成という展開でまとめています。子どもたちの将来の書写力を見すえた、ここでの書写力の基礎としての知識・技能の習得、そして応用にまで発展させた指導内容は、どれを取っても児童をわくわく学習させるのに十分です。入学当初に書かれた名前の変容ぶりとその学習成果を物語っています。ここで育まれた書写力の基盤は、児童の学習成果の結晶であるとともに、指導者の勲章でもあると考えます。

(M)

連載 書写ってこんなにも面白い！ 23

書写の要素 文字の外形

山梨大学教授 宮澤 正明

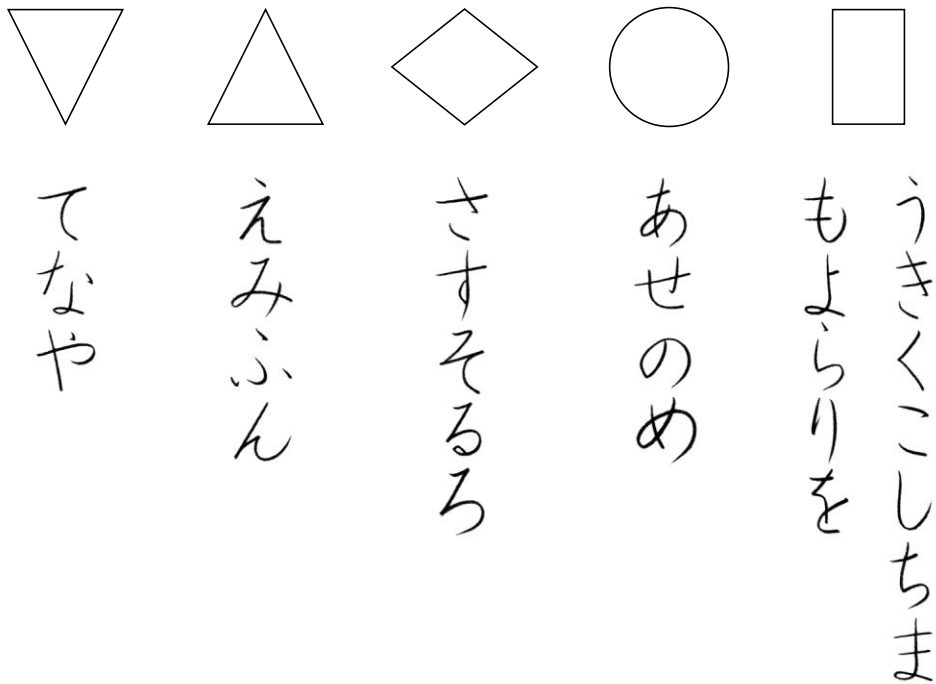
今回は、文字の外形について取り上げます。

■文字の外形

文字は、書体としての体系や様式の中で、読みやすさ、書きやすさといった観点から、文字それぞれに固有の形が決定つけられてきました。「山」は中心の縦画を長く左右の縦画を短くした形に、「月」は背を高くスマートな形にと、それぞれの固有の形が定着して今日に至っています。

この固有の形は、誰もが「山」「月」と認識する上で大切な要素です。このように、文字それぞれの固有の形にそってアウトラインを引いたものが、文字の外形といえます。なお、高等学校芸術科書道では「概形」と表記しますが意味は変わりません。

このアウトラインを厳密に引きすぎると、多くの場合、その形は複雑な多角形になります。これでは分類が困難になるので、外形指導では「□△○◇」などの単純な図形によってとらえ



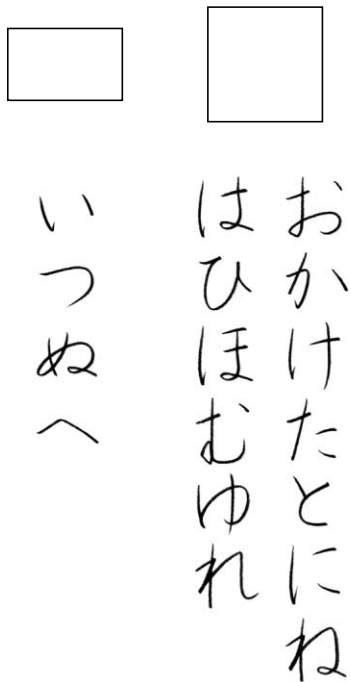
ることが一般的です。

文字の外形は、字形の全体像をイメージ化する上で有効な要素なので、小学校低学年から学習する場合が多いようです。小学校低学年は、算数で図形概念や感覚を養う時期にあたります。文字の外形学習と図形学習とを横断的に関連を図りながら指導すると、理解が早まるでしょう。

ただし、文字の外形には曖昧さがあります。「日・国・門」などのように、画そのものが直接外形になるような字例は問題ないのですが、「女・力・必」などのように、点画の出入りが多く、アウトラインが複雑な多角形になりやすい字例では、外形学習はその効果を期待しにくいといえるでしょう。字例を選択する場合は、単純な図形に入るものに限定する必要があります。

外形指導でもっとも効果的なのは平仮名です。

大まかな分類をしてみましょう。ただし、これも目安なので、この外形にすべてを合わせる必要はありません。



わたしたちが文字の形をどのように認識し、それをどのように記憶にとどめているのかについては、まだ十分にわかっていない部分もあります。しかし、文字学習や書写学習も手で書いて覚える方法によっていることから、文字の記憶は完成された字形一つだけがインプットされているのではなく、筆順に従って一点一画を書きながら文字を形成していく過程までが含まれると言われています。したがって、文字を実際に書く際の点画の終筆の書き方や字形、筆順などの記憶が、大いに影響を与えることになるのです。

文字を手で書くことで文字の記憶を確かなものにする方法は、今後普遍的学習方法として生き残ることは疑う余地はないでしょう。

その一方で、目で見て覚える学習過程も存在します。教科書体をはじめ、書写教科書のいわゆるお手本とか書き文字教材がその主たるものですが、子どもたちを取り囲む文字環境は適切な書き文字ばかりとは限りません。子どもたちは小学校入学前にさまざまな文字スタイルを見て目習いをしてきています。ですから、書くための記憶としては不完全ながら、文字の外形、点画・字形の特徴などは、既に記憶していると思われる。しかし、この漠然とした記憶としての「文字表象」が書き文字にどの程度影響があるのか、このあたりの研究はまだ進んでいないと言えます。書く学習だけでなく、文字表象を確固たるものにするためにも、目で見て覚える文字の観察学習もおおいに取り上げたいものです。

「光村の本」 好評発売中！

大人の本の作家と子どもの本の作家が交流する。バトルする。新しい書き手が参加する。挑戦する。児童文学の冒険、ふたたび！

 最新刊8号	書 名			本体価格	定価	判型
	飛ぶ教室	2007春 9号	創作特集(4月発売)	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2007冬 8号	柴田元幸の「飛ぶ教室」的文学講座	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2006秋 7号	ぼぼ まるごと一冊 長新太(最新刊)	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2006夏 6号	ブーの森で語り明かそう	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2006春 5号	創刊一周年!創作特集号	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2006冬 4号	トーベ・ヤンソンのもうひとつの顔	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2005秋 3号	神沢利子の世界	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2005夏 2号	少女小説の知的なくらみ	952	1,000	B5変
	飛ぶ教室	2005春 1号	復刊特別号	952	1,000	B5変
	年4回(1・4・7・10月)発売					

日本文藝家協会編。人生の機微に触れる珠玉のエッセイ・アンソロジー！

	書 名		本体価格	定価	判型
	ベスト・エッセイ 2006	意地悪な人 (最新刊)	2,000	2,100	四六判
	ベスト・エッセイ 2005	成り行きにまかせて	2,000	2,100	四六判
	ベスト・エッセイ 2004	犬のため息	2,000	2,100	四六判
	ベスト・エッセイ 2003	花祭りとパーミヤンの大仏	2,000	2,100	四六判
	ベスト・エッセイ 2002	落葉の坂道	2,000	2,100	四六判

西郷竹彦著。著者自ら小学校・中学校・高等学校の現場で授業した経験が生きる。授業をもう一段深めるのに役立つ理論。

	書 名		本体価格	定価	判型
	名詩の世界	西郷文芸学入門講座 第1巻 第3巻 第5巻 第6巻	2,095	2,200	A5判
	名詩の世界	西郷文芸学入門講座 第2巻 第4巻 第7巻	2,381	2,500	A5判

小学生のための英語テキスト。英語を使ったコミュニケーションの楽しさを、子どもたちと一緒に実感してください。

	書 名		本体価格	定価	判型
	JUNIOR COLUMBUS 21	児童用テキストBOOK1(3・4年用)	524	550	B5判
	JUNIOR COLUMBUS 21	児童用テキストBOOK2(5・6年用)	524	550	B5判
	JUNIOR COLUMBUS 21	指導書BOOK1(CD3枚・別冊ブックレット付)	4,571	4,800	B5判
	JUNIOR COLUMBUS 21	指導書BOOK2(CD3枚・別冊ブックレット付)	4,571	4,800	B5判

中国人学習者のための総合日本語テキストの決定版！

	書 名		本体価格	定価	判型
	新版中日交流 標準日本語	初級上下巻セット(分売不可)	4,000	4,200	B5判
	新版中日交流 標準日本語	初級CD(6枚組み)	3,000	3,150	—
	中日交流 標準日本語	会話編	1,500	1,575	A5判
	中日交流 初級 標準日本語	会話編発音部 カセット(全1巻)	700	735	—
	中日交流 初級 標準日本語	会話編会話部 カセット(全3巻)	2,100	2,205	—
	中日交流 初級 標準日本語	会話編語彙部 カセット(全4巻)	2,800	2,940	—

光村の好評ロングセラー。国語教育の至宝と三巨匠の画集。

	書 名		本体価格	定価	判型
	近代国語教育論体系	全20巻	172,816	181,457	菊判
	近代国語教育論体系	増補5巻	43,205	45,365	菊判
	統・国語教材の読み方読ませ方	井上敏夫著	1,500	1,575	B6判
	説明的文章の読み方読ませ方	井上敏夫著	1,942	2,039	B6判
	授業開きの構造	安居總子著	2,200	2,310	四六判
	小林古徑	作品と素描	90,000	94,500	B4判
	坂本繁二郎	水彩画集	25,000	26,250	B4変
	福田平八郎	作品と素描	95,000	99,750	B4判

●全国の書店および、弊社HP(光村チャンネル<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> からオンラインショッピングをクリック)にてお求めいただけます。

写実を極めた画家・野田弘志の集大成！

画集 野田 弘志 四月下旬発売

フルカラーのカタログレゾネ付
加賀乙彦「野田弘志さんの写実の独創性」所収

定価 45,150円(本体43,000円)

収録作品約700点

B4判変形 総頁数361頁



小中一貫教育の先駆的な教育特区品川区と国語の光村図書が共同開発・編集。

漢字ステージ100

品川区小中一貫教育 国語科

全3巻：1・2年生 3・4年生 5・6・7年生(8・9年生)

定価 各950円(本体905円) B5判横 平均130頁

楽しく学べる工夫がいっぱい。

- 常用漢字1945字を3分冊で学習できます。
- 光村の国語教科書のキャラクター(カンジー博士)や、漢字の手書き文字、教科書体を使うことで、教科書との一貫性を図っています。



教科書で習ったあのなつかしい作品が、今よみがえる。

光村ライブラリー・中学校編

- 昭和30年から平成14年までに国語教科書に掲載された時代を超えて心に響く、感動の71作品。
- 全5巻—文学(3巻)・説明文(1巻)・詩(1巻)
- 読みの抵抗が少ない—常用漢字は、すべてルビ付き。

セット定価 5,250円(本体5,000円)

各巻定価 1,050円(本体1,000円)

菊判上製 各巻平均120頁



光村ライブラリー 全18巻

- 光村図書の小学校国語教科書の中から、118作品を一挙収録。
- 昭和46年から平成12年までの教科書から精選。
- 教科書収録時の学年に基づき、低・中・高学年別に編集。
- 学年の配当漢字にふりがなを付け、読みやすさに配慮。

セット定価 18,900円(本体18,000円)

各巻定価 1,050円(本体1,000円)

菊判上製 各巻平均80頁

監修：樺島忠夫／宮地裕／渡辺実





お知らせ

【研究会のご案内】

■岐阜大学教育学部実習校
岐阜市立加納小学校 平成十九年度研究発表会

Ⅱ文部科学省指定（平成十七年度～十九年度）

学力向上拠点形成事業拠点校Ⅱ

開催日 平成十九年六月二十八日（木）～二十九日（金）

テーマ 実践力のある子どもの育成

～学び合い、「自らの学び」を高める～

内 容 公開授業（各教科、道徳、特別支援教育、特別活動、
全体会、六年生児童によるオペラ、分科会

資料代 一〇〇〇円

連絡先 岐阜市立加納小学校（岐阜市加納西丸町一・七三二）

TEL 〇五八（二七二）二〇二八

FAX 〇五八（二七二）二〇四八

E-mail : gisyoi6@kanou-e.gifu-gif.ed.jp

<http://www.gifu-gif.ed.jp/school/kanou-e/>

光村「国語デジタル教科書」をお使いの先生方へ

【マイクロソフトウィンドウズビスタ対応について】

ウィンドウズビスタ搭載パソコンで、CD・ROMから起動してご利用いただいたり、パソコンのハードディスクにインストールしてご利用いただいたりする場合は、お手数ですが「デジタル教科書お客様窓口」までお問い合わせください。

なお、弊社ホームページにおいても、ソフトウェアサポートのご案内しておりますので、あわせてご参照ください。

<http://mitsumura-tosho.co.jp/upgrade2007/index.htm>

デジタル教科書お客様窓口

TEL 〇三（三四九三）五七四一

※受付時間 平日10時から17時まで（12時から13時を除く）

FAX 〇三（三四九三）五四八三

E-mail : digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

広報部便り

前号では「指導書に対するアンケート」にご協力いただき、まことにありがとうございました。さらに豊かな国語教室が展開できるよう、指導書の充実を目ざしてまいります。ぜひたくさんのお声をお寄せください。

アンケートのお願い

みなさんのお声を、今後の広報誌編集の参考にさせていただきたいと思います。
下記アンケートにご記入のうえ、弊社広報部までお寄せください。

Q1 今号で関心をもたれた記事、役に立った記事はなんですか。

Q2 国語教育全般の中で、今ご関心のある話題や人物があれば、お聞かせください。

Q3 「国語教育相談室」に対するご意見・ご要望があれば、お聞かせください。

●差し支えない範囲でお答えください。

性別 ☐ 男性 ☐ 女性 年齢 （ ） 歳

勤務先 ☐ 小学校 ☐ 中学校 ☐ 教育委員会 ☐ その他（ ）
学校名・教育委員会名（ ）

●「国語教育相談室」の個人宛送付とメールマガジン配信をご希望の方は、送付先をご記入ください。 次号より送付いたします。（無料）

☐ 「国語教育相談室」送付希望 （☐ 小学校版 ☐ 中学校版）

お名前: _____

ご住所: 〒 _____

☐ メールマガジン配信希望 メールアドレス: _____

ご協力ありがとうございました。

【送付先】光村図書出版株式会社 広報部 FAX: 03-3493-5483

2007/4/S60

※弊社ホームページ「光村チャンネル」<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/>「教科通信」のコーナーからも、アンケートにお答えいただけます。

※お預かりしました個人情報については、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切に管理・保護いたします。

※お寄せいただいたご意見は、誌上に掲載させていただくことがあります。

キ
リ
ト
リ
線

平成17年度版小学校国語教授用ソフト 大好評 絶賛発売中!!



光村「国語デジタル教科書」は、
プロジェクトなどの教材提示装置用に
開発された一斉学習のためのソフトウェアです。
全員で同じ画面を見ながら学習することで、
授業に一体感が生まれます。

光村国語デジタル教科書 1~6年

Windows®版

学校フリーライセンス価格：各学年 52,500 円(本体 50,000 円)
※「学校フリーライセンス」は、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。



「実践活用ガイド」が新しくなりました!
体験版と併せてただいま配布中です。詳しくは下記ホームページをご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/>

※Windows®は、米国マイクロソフト社の登録商標です。

光村図書

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
TEL 03-3493-2111 (代表) 03-3493-4742 (直通) FAX 03-3493-5483
E-mail digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

国語科の「声に出す」活動を網羅しています。
新学習指導要領で求められている「国語力」を育てます。

光村の
国語

読んで、演じて、みんなが主役!

台本の作り方から実演の仕方までを紹介。
そのまま授業や発表会などで活用できる!

2007年
新刊!



全3巻

- 第1巻 音読・朗読・暗唱・群読
—名詩・名文にチャレンジ
- 第2巻 劇・朗読劇
—気持ちを合わせて名演技
- 第3巻 落語・口上・決めゼリふ・ショートコント
—これでみんなの人気者

AB判 4色刷り 各64ページ
揃定価 10,080円 (揃本体9,600円+税5%)
各巻定価 3,360円 (本体3,200円+税5%)

光村の
国語

調べて、まとめて、コミュニケーション

調べ方、まとめ方、発表の仕方がひと目でわかる。
ディベートやポスター作りなど、使える実践30テーマ!
なぞなぞや語源調べなど、ことばを楽しむ40テーマ!

大好評
発売中!



全5巻

- 第1巻 ことばの不思議 ベスト20
- 第2巻 疑問調べ大作戦
- 第3巻 めざせ! 編集長
- 第4巻 発表・討論チャンピオン
- 第5巻 ことば遊び チャレンジ20

AB判 4色刷り 各48ページ
揃定価 14,700円 (揃本体14,000円+税5%)
各巻定価 2,940円 (本体2,800円+税5%)

教科書にピッタリ。自学自習に最適! すべての漢字にふりがな付き!

好評
発売中



収録語数 約33,000語
「引き方のポイント」「学年別漢字表」付き
B6判 1,312ページ 2色刷り
小学新国語辞典
監修 甲斐睦朗
定価 1,800円 (税込)

新発売



収録親字数 約3,000字
「漢字辞典の使い方」16ページ付き
B6判 1,312ページ 2色刷り
小学新漢字辞典
監修 甲斐睦朗
定価 1,800円 (税込)

光村教育図書株式会社

お問い合わせ先 TEL. 03-3779-0581
<http://www.mitsumura-kyouiku.co.jp/>